

高校改革プランに 異議あり！

教育論よりも財政論優先！ こんな「改革」許せますか？

10月4日(月)、「高等学校改革プラン検討委員会」は、「中間まとめ」を発表。「**非公開の秘密会議**」を経て報告された「中間まとめ」は、具体的な学校名にまで言及した、教育予算削減の「**高校統廃合プラン**」でした。

高校改革プランの本当のねらい

今回の「中間まとめ」では以下のことが報告されています。

- ① 全日制高校6校、定時制・通信制高校3校削減
- ② 通学区を**全県一区**に拡大
- ③ 統廃合を含んだ新しいタイプの高校設置
- ④ 推薦入試枠を拡大

このプランは、今後の生徒急減期における高校教育をいかに充実させるかという教育論に基づいたものではなく、生徒数減少のみを根拠として教育予算削減をねらった、**財政論優先のプラン**なのです。

このプランが実施されるとこんな問題が…

- ① 地域から高校が消え、遠距離通学、保護者の経済的負担が増加します。
- ② 「全県一区」で学校間格差が拡大し、地元の高校に「行けない」子どもたちが増加します。
- ③ 定時制高校が削減され、働きながら学ぶ生徒の通学が困難になります。
- ④ 「併設型中高一貫教育校」設置で中学入試が始まります。

(以上の問題点の詳細は裏面に記載しています)

地域から高校が消えてもよいのでしょうか

大分県教育委員会は「小規模校では満足な教育活動ができない」ことを強調しています。しかし、決してそんなことはありません。小規模校だからこそ、地域・保護者・教職員・子どもたちの間で密接な連携がとれ、行き届いた教育実践がなされているという例はいくらでもあります。

逆に地域から高校が消えれば、過疎化に拍車がかかるなど多くの問題が生じることは、過去の例から見ても明らかです。

私たちはこう考えます

- ① 地域住民の声を無視した高校の統廃合を行わないこと！

現在開催されている地域別説明会や懇談会では、「改革プラン」に対する多くの疑問や反対の声があがっています。プランの一方的な押しつけではなく、地域住民の声を十分反映した民主的な原案作りを進めるべきです。

地域住民の声を無視した高校の統廃合、絶対反対です！

- ② 通学区の拡大を行わないこと！

「全県一区」は、子どもたちを地域から流出させるシステムに他なりません。保護者や子どもたちに負担を強いる「**全県一区**」、絶対反対です！

子どもの未来を
まもろうよ



大分県教職員組合
大分県高等学校教職員組合

〒870-0929 大分県大分市大字下郡字長谷496-38番地 教育会館内
大分県教職員組合 電話 097-556-5617 FAX 097-556-3321
大分県高等学校教職員組合 電話 097-556-2838 FAX 097-556-8998
※「高校改革プランに異議あり」ホームページ
→ URL <http://www.geocities.jp/planigiari/> E-mail planigiari@yahoo.co.jp

この「中間まとめ」が実施されると、どうなるのでしょうか？

～地域の姿が変わり、高校教育がおびやかされる改悪プランです～

●地域から高校が消える！ 遠距離通学、保護者負担が増加！

- ・地域から学校が消えることで生徒の平均通学時間が長くなり、それに伴い保護者が負担する通学費は増大します。遠距離通学の生徒は高校での課外活動等が制限されます。
- ・プラン検討委の計画をすすめれば、さらに第2弾の統廃合が行われ、今回統廃合の計画に入っていない地域においても、今後、高校数が削減されることが考えられます。
- ・地域から高校が無くなると、過疎化にいつそうの拍車がかかります。
- ・プラン検討委の基準（全県で1学年6～8学級の「適正規模」化を図る）で試算すると、2014年には現在の高校54校が35校に減る可能性があります。（現在、大分県の公立高校54校中、1学年6学級以上の高校は18校（33.3%）しかありません。しかも18校中12校は大分市内の高校です。）

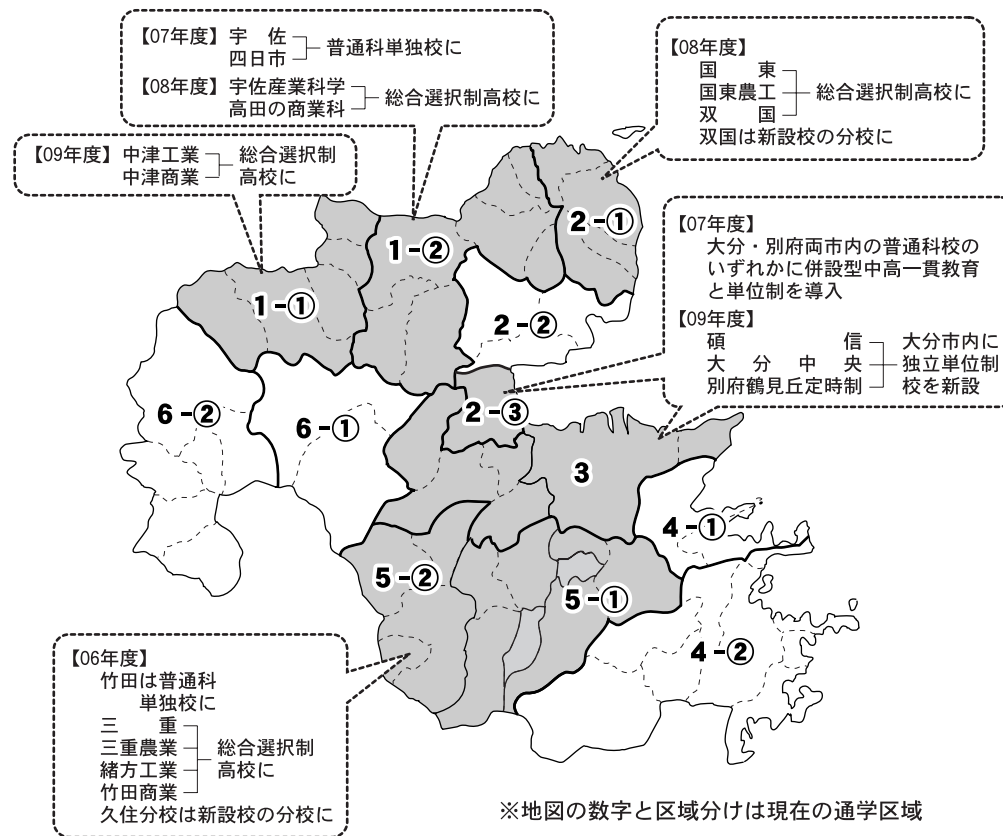
●「全県一区」で学校間格差が拡大！ 地元の高校に「行けない！」

- ・点数学力が高く、経済的にゆとりのある家庭の生徒のみに「学校選択の自由」が与えられることになり、「教育の機会均等」とは逆行することになります。
- ・全県的に点数による輪切りがさらにすすみ、学校間格差がより拡大します。
- ・有名校・人気校に受験希望者が集中し、今以上に地元の高校に進学できなくなる生徒が増えます。

●定時制高校がさらに削減！

- ・03年の臼杵高校定時制の閉校につづき、今回の計画ではさらに定時制高校の数が減少します。これでは働きながら学ぶ生徒たちにとって通学が困難な状況になります。

中間まとめが示した2009年までの県立高校再編整備計画



●「併設型中高一貫教育校」で中学校入試が始まる！

- ・「併設型中高一貫教育校」は、新設の県立中学校（県教委は全県一区を想定）と高校の一貫教育校です。中学入学段階での選抜（適性検査）があり、受験競争の低年齢化・過熱化が懸念されます。